

入 選

「水資源」について考える

人間が生きていく上で、最も必要で重要な資源は、水である。私達の体内の水分量は、年齢や性別、体格によって異なるが、成人男性では、約六十％、女性は約五十五％と言われている。私達の命や日常に欠かせない水は、浄水場で安全な水道水に変わり、家庭の蛇口から供給されている。私が住んでいるさいたま市の水源は主に二つあり、河川水と地下水から構成されている。一つ目は昭和四十三年に埼玉県営水道から、受水が開始された河川。二つ目は、自己水源である井戸から取水し、供給する地下水である。昔は、豊富な地下水を汲み上げて給水をしていたが、現在は、気候変動による雨量の減少や地盤沈下、地下水の枯渇や水質汚染等の影響により、河川水が主な水源となっている。私は、小学校四年生の時、水について興味を持った。荒川の源流を自分の目で確かめ、調査する為、秩父市入川溪谷、上流一級河川、荒川起点がある赤沢出合に足を運んだ経験がある。川の水温計測、溪流沿いの土壌の状態を調査することが目的であった。森林の中は、外気温が低く、夏でも肌寒かったことを覚えている。道中、至る所で湧水や小さな滝が流れ、水質資源が豊富であった。前日は雨が降り、雨水は、落葉や土に染み込むことで、天然のろ過となり、勢い良く川に流れ出ていた。その様子を目の当たりにした感動を、今でも鮮明に覚えている。上流に行く程、山間部を流れる川幅は狭く、水量も減少していた。土壌と水の計測結果は、水温差はほぼ無く同じで冷たくなることが分かった。透明な綺麗な水を眺めて感じた事は、「水資源」でした。日本の国土の約六十七％は森林で、約二千五百万ヘクタールに及ぶ高い森林率を誇る。温暖な気候は、全国的に十分な洪水量を確保し、どこでも木が育つ風土に育まれている環境が、世界中でも、日本の水資源が豊富と言われている理由の一つである。森林と水の関係は、互いに深く関わり合い、私達の生活に欠かせない良質な水の安定的な供給に重要な役割を果たしてくれている。私は、春休み中に、自然体験として、栃木

開智中学校 三年 當金 侑也

県奥日光、湯元に行き、湯川や湯ノ湖の水をマッピングしながらサンプルを採取し、水質検査やキットでの調査も行った。湯ノ湖が流れる川の水の匂いや色、化学物質の含有量を調べ、pHや鉄、全硬度等の項目について調査した。硝酸塩のミネラルは、植物や微生物にとって重要な物質であり、水中に溶けている、マグネシウム・カリウム等の濃度が高い程、硬度も高い事が分かった。また、採取する場所により、土壌中の成分が異なる事で、その地域の土壌は、水質に直結している。生活用水等排出される水も注意が必要だ。近年、報道された井戸水の調査で、一部の物質が有害な化学物質、有機フッ素化合物の「PFAS」について、環境省が、基準となる数値を超えた場合の改善策を、法律で義務付けた。基準となる数値は、暫定的な目標値としている。一リットル当たり、五十ナノグラムとし、令和八年四月から施行される予定だ。また、先月、岩手・岡山・愛媛県で相次ぐ山林火災が発生し、計数千ヘクタールが焼失した。春先は、野焼きをする機会が増え、空気が乾いている為、山火事が頻発し易いと言われている。火災で森林が焼失すると、山木から水を蓄えられなくなり、洪水量は少なくなる。この様な状況を考えると、日本の大切な「水資源」を将来に残す為には、一人一人がもつと、「水に関心を持つ事」だと思ふ。そして水質は、綺麗さを保った水でなければ、私達の命を守ることができない。

「水資源」に対する意識を持ち、限られた水源を守る為にも、緑地を壊さないように保つ事は、人間の使命であると思う。私が見た美しい輝きの湧水が将来も流れ続く事を願っている。